



人と人をつなぐ言葉

学校長 三瓶 徹

新学期がスタートして、1か月が過ぎました。木々は青葉若葉の季節を迎え、新緑が美しい季節となりました。

入学して1か月ほどたった1年生は、緊張感も少しほぐれ、徐々に学校生活にも慣れてきたようです。子どもたちの学習の様子を参観していると、「校長先生！」と元気に声をかけてくれます。楽しく学習に取り組んでいる姿にうれしく感じています。

また、毎朝、「おはようございます」と元気な声が聞こえてくると、その声と一緒に子どもたちの素敵な笑顔が輝いています。そんな様子を見ていると、今日もすばらしい1日がはじまる予感がします。この一言の言葉が、私たちの心を和ませ、そして活力を与えてくれます。

私たちの生活の中で、言葉によるコミュニケーションは欠かすことはできません。その言葉のもつ意味はとても重要です。それは温かみのある言葉によって励まされたり勇気づけられたり、その反対に冷たい言葉を浴びせられると落ち込んだり自信を失くしてしまったりすることがあるからです。

東京都荒川区にある道灌山幼稚園の元園長の高橋系吾さんの「その一言」という詩を紹介いたします。

その一言

その一言で励まされ その一言で夢を持ち

その一言で腹がたち その一言でがっかりし その一言で泣かされる

ほんのわずかな一言が 不思議に大きな力持つ ほんのちょっとの一言で

短い詩の中に、一言の言葉が、人の心に大きな変化をもたらすことがよく表れています。ほんのちょっとした一言が、人の心を傷つけたり、逆に大きな勇気を与えたりするのですから、言葉はほんとうに不思議な力を持っていると思います。これからも、言葉を大切にし、素敵な一言が言えるようにしていきたいものです。

人と人のかかわりの原点は、言葉のやりとりです。その始まりを「あいさつ」と言い、互いのコミュニケーションを深める一歩として大切であることはいうまでもありません。まずは、心のこもった「あいさつ」の一言から友達の輪を広げ、学校を優しく温かい空間にしていきたいと思います。



【笹山小のシロバナタンポポ】